

## 2024年3月期 通期決算説明会 主要質疑応答

### 試薬市場の回復としてどのような要素を考えているか。

- 地域毎に異なります。  
日本では、大学などのアカデミア研究機関向けの研究補助金は、例年とおりに支給されていますが、今後、大きな増加が見込めない状態です。また、物価高の影響もあり、実質的に研究用予算の目減りが懸念されています。そのため、研究支出には慎重な傾向がみられます。一方、企業の研究開発投資は堅調なようです。当社としては、企業向けの OEM/カスタム製品に注力していきます。
- 米国は利下げにより、資金調達環境の回復が見込まれ、ベンチャーなどを中心に研究開発意欲が高まると予想しています。当社では、価格政策や民間分野向けに OEM/カスタム製品をタイムリーに供給できるような体制を整備しています。
- 中国は政府の研究用補助金が削減され、厳しい状況が続きます。また、中国企業の台頭による価格競争も市況を悪化させています。当社は中国工場において現地向け製品を製造している利点を活かし、コモディティ化が進む製品については価格対応によりシェアの維持を図ります。一方で、差別化した高付加価値製品の開発にも注力していきます。
- 欧州は紛争の影響が大きく、市況は厳しい状態です。スウェーデン子会社で現地ニーズに即した遺伝子工学研究用試薬の製造を開始しました。

### CDMO 市場、特に遺伝子・細胞治療分野の状況は。

- 国内製薬企業の一部で遺伝子・細胞治療分野から撤退する動きがあり、成長が鈍化する可能性はありますが、その他、アカデミア分野では国の支援も大きく順調のようです。
- 当社では、シーズ段階から開発を支援し、中長期的にプロジェクト化される点に期待しています。

### NY-ESO-1・siTCR®遺伝子治療薬(TBI-1301)の申請準備状況のアップデートをお願いします。

- 「先駆け審査指定制度」に基づいた「先駆け総合評価相談」が開始されました。2025年度までの製造販売承認申請を計画しています。

中期経営計画 2025 について。策定時から市場の状況の変化や業績との乖離が著しいが、アップデートの予定はありますか。

- ご指摘のような状況だと認識しています。足下で、数値目標に乖離はあるものの、事業の方向性や目標などについては変更がないため、計画を変更することは考えていません。
- 試薬事業については、世界的なライフサイエンス研究市場の低迷により計画が遅延していますが、今後、ライフサイエンス研究市場の回復とともに試薬事業についても成長性を取り戻すことができると予想しています。また、CDMO や遺伝子医療などは堅調です。設備や人材への投資についても計画の通りに推移していると考えています。

以上